

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
第1編	先史・古代の日本と東アジア	4月～5月	19	・先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、先史・古代の日本と東アジアに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	・先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	○人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、先史・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。
第1章	先史社会の生活と文化	4月	4	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、先史社会の特色を理解している。	・自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・黎明期の日本列島の変化に着目して、先史社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、先史社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
	1 旧石器時代の日本	4月	1	・旧石器時代の日本について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。	・自然環境と人間の生活との関わりなどに着目して、旧石器時代の日本列島の人々がどのような環境のもとで、どのような生活を送っていたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。		○人類の出現と旧石器時代の日本列島について理解する。
	2 縄文文化		1	・縄文文化が生まれた背景や文化の特色について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。	・中国大陸や朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係などに着目して、縄文文化はどのように生まれ、人々の生活や文化にどのような変化をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。		○縄文文化の特色や日本人の起源について理解する。
3 弥生文化と小国家の形成		2	・弥生文化の特色と小国家の形成について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。 ◎先史社会の展開から古代への時代の転換を理解している。	・狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、水稲耕作がどのように広まり、どのような影響を及ぼしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ◎第1章「先史社会の生活と文化」の内容をまとめるとともに、黎明期の日本列島の変化に着目して、先史社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○弥生文化の特色と小国家の形成について理解する。 ○先史社会の展開から古代への時代の転換に着目して、先史社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	
第2章	歴史資料と先史・古代の展望	4月	2	・先史・古代の特色を示す適切な歴史資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から先史・古代の特色についての仮説を表現することを通じて、第3章に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにする。
	1 先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質	4月	2	◎先史・古代の歴史を組み立てる資料から年代の特定方法に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎先史・古代の歴史を組み立てる資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の資料の特質について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第1編「先史・古代の日本と東アジア」に対する学習の見通しをもって、先史・古代の資料の特質について明らかにしようとしている。	○先史・古代の歴史を組み立てる資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、先史・古代の歴史を組み立てる資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の資料の特質について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	2 東アジアとの交流のなかでうかがえる歴史		2	◎東アジアとの交流のなかでうかがえる歴史に関する資料から日本と東アジアとの関係に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎東アジアとの交流のなかでうかがえる歴史に関する資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第1編「先史・古代の日本と東アジア」に対する学習の見通しをもって、先史・古代の特色について明らかにしようとしている。	○東アジアとの交流のなかでうかがえる歴史に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、東アジアとの交流のなかでうかがえる歴史に関する資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
	3 木簡が語る律令国家の実態		2	◎木簡を基に、資料から律令国家の実態に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎木簡を通して読み取れる情報から、古代国家の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第1編「先史・古代の日本と東アジア」の学習の見通しをもって、古代国家の特色について明らかにしようとしている。	○木簡から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、木簡を通して読み取れる情報から、古代国家の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
第3章1節	古代社会の形成と展開 「律令国家の形成と古代文化の展開」	5月	8	・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。	・中国大陸や朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりを理解や時代を通観する問い、第2章で表現した古代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 ヤマト政権と古墳文化	5月	2	・「ヤマト政権は、人々をどのように支配していったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「日本列島の各地に分かれていた勢力は、いつごろ、どのようなきっかけで、政治的に結びつくようになったのだろうか」などの課題について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。	・1節「律令国家の形成と古代文化の展開」に関わる問いをふまえて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「ヤマト政権と古墳文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、古墳時代の政治と文化について理解する。
	2 飛鳥の朝廷と文化		1	・「東アジア情勢が変化するなか、倭国はどのような国際関係を築こうとしたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「東アジア情勢の変化は、倭国の政治や文化にどのような影響をおよぼしたのだろうか」などの課題について、中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2項「飛鳥の朝廷と文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、飛鳥時代の政治と文化について理解する。
	3 律令国家の形成と白鳳文化		2	・「律令国家とはどのような国家だったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「日本が中国にならった律令にもとづく国づくりを、急いで進めたのはなぜだろうか」などの課題について、中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、3項「律令国家の形成と白鳳文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、律令国家の形成過程と律令制の特徴について理解する。
	4 平城京と天平文化		3	・「奈良時代にはどのような政治がおこなわれたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、先史から古代の政治・社会や文化の特色について理解している。	・「天平文化の国際性は、どのような要因によってもたらされたのだろうか」などの課題について、中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎1節「律令国家の形成と古代文化の展開」に関わる主題を基に、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過	・1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について振り返り、調整しようとしている。	○主題を基に、4項「平城京と天平文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、奈良時代の政治と文化について理解する。 ○1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
							通して、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。
第3章2節	「摂関政治と貴族文化」	5月	5	・貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。	・地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・2節「摂関政治と貴族文化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・2節「摂関政治と貴族文化」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりを理解や時代を通観する問い、第2章で表現した古代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 平安遷都と唐風文化	5月	2	・「平安時代の初期には、どのような政治改革がおこなわれたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「平安時代の初期のあいつぐ遷都や征夷、政治改革は、日本の律令制にどのような変化をもたらしたのだろうか」などの課題について、社会の変化と文化との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。	・2節「摂関政治と貴族文化」に関わる問いをふまえて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「摂関政治と貴族文化」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「平安遷都と唐風文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、平安時代初期の政治と文化について理解する。
	2 貴族社会と摂関政治		2	・「藤原氏北家はどのようにして権力を握ったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「摂関政治はそれまでの政治のあり方とどのように異なり、地方社会にどのような影響をおよぼしたのだろうか」などの課題について、地方の諸勢力の成長と影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2項「貴族社会と摂関政治」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、藤原氏の台頭と武士の出現について理解する。
	3 国風文化		1	・「国風文化の特徴は何か」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容について理解している。	・「国風文化と弘仁・貞観文化を比較して、その違いが生まれた背景は何だろうか」などの課題について、社会の変化と文化との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎2節「摂関政治と貴族文化」に関わる主題を基に、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	◎第1編「先史・古代の日本と東アジア」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	○主題を基に、3項「国風文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、国風文化の特色について理解する。 ○2節「摂関政治と貴族文化」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。
第2編	中世の日本と世界	6月～9月	21	・中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、中世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・中世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	・中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	○平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。
第1章	中世社会の成立	6月	4	・貴族政治の変容と武士の社会進出、土地支配の変容などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、古代から中世への時代の転換を理解している。	・権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通	・中世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組む、課題を追究しようとしている。	○院政期から武家政権成立期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				(評価の方法)	(評価の方法)	(評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	学習のねらい
					観する問いを表現している。		
	1 朝廷政治の変容	6月	2	・院政の特色や荘園公領制の成立について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。	・権力の主体の変化などに着目して、朝廷政治や土地支配のしくみがどのように変容していったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。		○院政の開始と展開、土地支配の変容について理解する。
	2 武士の政治進出		2	・武士の社会進出と平氏政権の誕生、日宋貿易と院政期の文化の特色について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。 ◎古代から中世への時代の転換を理解している。	・東アジアとの関わりなどに着目して、武士がどのようにして政治進出していき、どのような対外関係を持ち、どのような文化を生み出していったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ◎第1章「中世社会の成立」の内容をまとめるとともに、時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・中世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○武士の社会進出と平氏政権の誕生、およびその時代の外交と文化の特色について理解する。 ○古代から中世への時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
第2章	歴史資料と中世の展望	6月	2	・中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・中世の日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から中世の特色についての仮説を表現することを通じて、第3章に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにする。
	1 武家権力による日本社会の変容	6月	2	◎武家権力による日本社会の変容に関する資料から中世の権力構造に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎武家権力による日本社会の変容に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第2編「中世の日本と世界」に対する学習の見通しをもって、中世の特色について明らかにしようとしている。	○武家権力による日本社会の変容に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、武家権力による日本社会の変容に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
	2 厳しい自然環境での人々の生存戦略		2	◎厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料から中世の人々の暮らしに関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第2編「中世の日本と世界」に対する学習の見通しをもって、中世の特色について明らかにしようとしている。	○厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
	3 中世日本の国際交流		2	◎中世日本の国際交流に関する資料から中世の国際交流の特徴に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎中世日本の国際交流に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第2編「中世の日本と世界」に対する学習の見通しをもって、中世の特色について明らかにしようとしている。	○中世日本の国際交流に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、中世日本の国際交流に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
第3章1節	中世社会の展開「武家政権の成立と朝廷」	6月～7月	7	・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。	・公武関係の変化、宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・1節「武家政権の成立と朝廷」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・1節「武家政権の成立と朝廷」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ古代から中世への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した中世を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	1 鎌倉幕府の誕生	6月～7月	2	・「鎌倉幕府はどのような過程を経て成立したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「鎌倉幕府と朝廷はどのような関係にあったのだろうか」などの課題について、公武関係の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。	・1節「武家政権の成立と朝廷」に関わる問いをふまえて、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について見直しを持つ。 ○主題を基に、1項「鎌倉幕府の誕生」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の支配のしくみについて理解する。
	2 執権による政治		2	・「承久の乱によって幕府と朝廷の関係はどうなったのか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「鎌倉幕府はどのように変化し、それは社会にどのような影響をあたえたのだろうか」などの課題について、公武関係の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2項「執権による政治」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、執権政治の特色について理解する。
	3 モンゴル襲来と社会の変貌		2	・「モンゴル襲来に対して鎌倉幕府はどう対処したのか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「モンゴル襲来は社会にどのような影響をあたえ、社会はどのように変化していったのだろうか」などの課題について、宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、3項「モンゴル襲来と社会の変貌」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、モンゴル襲来と鎌倉時代の社会の変化について理解する。
	4 鎌倉の仏教と文化		1	・「新たな社会の成立により、どのような宗教や文化が生まれたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、武家政権の伸張、社会や文化の特色について理解している。	・「なぜ仏教に新しい動きが生まれたのだろうか」などの課題について、鎌倉時代の出来事などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎1節「武家政権の成立と朝廷」に関わる主題を基に、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について振り返り、調整しようとしている。	○主題を基に、4項「鎌倉の仏教と文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉時代の仏教と文化について理解する。 ○1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。
第3章2節	「武家支配の広がり」と国際交流	9月	8	・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。	・社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・2節「武家支配の広がり」と国際交流」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 ・2節「武家支配の広がり」と国際交流」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ古代から中世への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した中世を展望する仮説をふまえて、資料を扱う技能を活用し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 南北朝の動乱と室町幕府の成立	9月	2	・「室町幕府はどのようにして政治体制をととのえていったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「武家政権と朝廷の関係はどのように変化したのだろうか」などの課題について、社会や経済の変化とその影響などに着目して考察し、その結果を表現している。	・2節「武家支配の広がり」と国際交流」に関わる問いをふまえて、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「武家支配の広がり」と国際交流」の学習について見直しを持つ。 ○主題を基に、1項「南北朝の動乱と室町幕府の成立」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立にかけての幕府と朝廷の動きについて理解する。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	2 倭寇と東アジア国際交流		1	・「倭寇の活動は、東アジア地域にどのような影響をあたえたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「東アジアのそれぞれの地域はどのような目的のもとに外交関係を築いていたのだろうか」などの課題について、東アジアの国際情勢の変化とその影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2項「倭寇と東アジア国際交流」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の外交関係について理解する。
	3 室町時代の社会と経済活動		1	・「室町時代に村落や都市はどのように変化したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「村落や都市の住人たちは、どのようにして生活を成り立たせていたのだろうか」などの課題について、社会や経済の変化とその影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、3項「室町時代の社会と経済活動」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の社会について理解する。
	4 自立する戦国大名		2	・「戦国時代はどのようにして始まったのか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「それぞれの戦国大名の分国統治はどのようなものだったのだろうか」などの課題について、地域の多様性などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、4項「自立する戦国大名」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、戦国大名の分国支配と都市の発達について理解する。
	5 室町文化		2	・「室町時代のそれぞれの時期にどのような文化が生まれたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色について理解している。	・「室町時代の文化の特色はどのようなものだったのだろうか」などの課題について、社会の変化と文化との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎2節「武家支配の広がり」と国際交流」に関わる主題を基に、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	◎第2編「中世の日本と世界」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	○主題を基に、5項「室町文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町文化の特色について理解する。 ◎2節「武家支配の広がり」と国際交流」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。
第3編	近世の日本と世界	9月～10月	22	・近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、近世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・近世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	・近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	○安土桃山時代から江戸時代までを扱い、近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解する。
第1章	近世社会の形成	9月	4	・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、中世から近世への時代の転換を理解している。	・村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・近世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
	1 地球的世界の形成と日本	9月	1	・15～16世紀の日本と海外との関係について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。	・アジア各地やヨーロッパ諸国との交流などに着目して、それらが日本にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。		○アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が日本に及ぼした影響について理解する。
	2 織豊政権による全国統一		2	・織豊政権による諸政策の目的や意義について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。	・村落や都市の支配の変化などに着目して、織豊政権がどのように全国統一を成し遂げたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。		○織豊政権による全国統一と、その政策の目的や意義について理解する。

単元番号	単元名	実施月	単元の 時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	3 桃山文化		1	・桃山文化の特色について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。 ◎中世から近世への時代の転換を理解している。	・桃山文化はどのような背景のもとに生まれたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ◎第1章「近世社会の形成」の内容をまとめるとともに、時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・近世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○桃山文化の特色について理解する。 ○中世から近世への時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
第2章	歴史資料と近世の展望	10月	2	・近世の特色を示す適切な歴史資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・近世の日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組みながら課題を追究しようとしている。	○資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近世の特色についての仮説を表現することを通じて、第3章に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにする。
	1 参勤交代と幕藩体制	10月	2	◎参勤交代と幕藩体制に関する資料から近世の支配のしくみに関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎参勤交代と幕藩体制に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第3編「近世の日本と世界」の学習の見通しをもって、近世の特色について明らかにしようとしている。	○参勤交代と幕藩体制に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、参勤交代と幕藩体制に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
	2 百姓たちの生活世界		2	◎百姓たちの生活世界に関する資料から近世を生きた人々の生活に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎百姓たちの生活世界に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第3編「近世の日本と世界」の学習の見通しをもって、近世の特色について明らかにしようとしている。	○百姓たちの生活世界に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、百姓たちの生活世界に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
	3 江戸時代の対外関係		2	◎江戸時代の対外関係に関する資料から近世の外交の特色に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎江戸時代の対外関係に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第3編「近世の日本と世界」の学習の見通しをもって、近世の特色について明らかにしようとしている。	○江戸時代の対外関係に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、江戸時代の対外関係に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
第3章1節	近世社会の展開「幕藩体制の確立」	10月	8	・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解している。	・織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・1節「幕藩体制の確立」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・1節「幕藩体制の確立」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した近世を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 江戸幕府と大名・朝廷	10月	2	・「江戸幕府の将軍は、どのように権力を確立したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「江戸幕府は、朝廷とどのような関係を築き、文化にどのような影響を与えたのだろうか」などの課題について、織豊政権との類似と相違などに着目して考察し、その結果を表現している。	・1節「幕藩体制の確立」に関わる問いをふまえて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、「幕藩体制の確立」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「江戸幕府と大名・朝廷」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の支配のしくみについて理解する。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	2 近世の身分と人々の暮らし		1	・「江戸時代の身分はどのように分かれていたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「近世の人々にとって、村や町はどのような意味を持っていたのだろうか」などの課題について、それ以前との類似と相違などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2 項「近世の身分と人々の暮らし」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、近世の身分と村や町での生活について理解する。
	3 アジアのなかの幕藩体制		2	・「アジアの諸地域と向き合うなかで、江戸幕府はどのような対外政策を進めていったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「江戸幕府は、なぜ貿易統制を強化していったのだろうか」などの課題について、アジアの国際情勢の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、3 項「アジアのなかの幕藩体制」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の対外政策について理解する。
	4 武断政治から文治政治へ		1	・「17 世紀後半、江戸幕府の政治はどのように変化したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「17 世紀後半、江戸幕府はなぜ政治を転換したのか」などの課題について、当時の社会的背景などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、4 項「武断政治から文治政治へ」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、幕府政治の転換について理解する。
	5 幕藩体制下の社会の発展		2	・「江戸時代の前半、どのような産業が発達し、どのような文化が生まれたのか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色について理解している。	・「江戸時代前半、なぜ産業が発達し、文化が栄えたのか」などの課題について、交通・流通の発達や、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎1 節「幕藩体制の確立」に関わる主題を基に、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・1 節「幕藩体制の確立」の学習について振り返り、調整しようとしている。	○主題を基に、5 項「幕藩体制下の社会の発展」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、産業の発達と文化の興隆について理解する。 ○1 節「幕藩体制の確立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。
第3章2節	「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」	10月	8	・産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。	・社会・経済のしくみの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化の関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・2 節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・2 節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1 章で学んだ中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い、第2 章で表現した近世を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 享保の改革と経済の発展	10月	1	・「18 世紀にはどのような社会の変化がみられたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「徳川吉宗は、なぜ享保の改革をおすすめたのだろうか」などの課題について、社会・経済のしくみの変化などに着目して考察し、その結果を表現している。	・2 節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」に関わる問いをふまえて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1 項「享保の改革と経済の発展」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、享保の改革と経済の発展について理解する。
	2 近世社会の成熟と危機の始まり		2	・「18 世紀後半、人々の生活はどのように変化したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「18 世紀後半の政治や文化にはどのような社会背景があったのだろうか」などの課題について、政治・経済と文化の関係などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2 項「近世社会の成熟と危機の始まり」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、18 世紀中後期の政治・社会・文化について理

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	3 幕藩体制の立て直し		2	・「化政文化にはどのような特徴があるのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「松平定信は、なぜ寛政の改革をおしすすめたのだろうか」などの課題について、国際情勢の変化と影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		解する。
	4 幕藩体制の動揺		3	・「幕藩体制の動揺と考えられる事例にはどのようなものがあるだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色について理解している。	・「水野忠邦は、なぜ天保の改革をおしすすめたのだろうか」などの課題について、幕府や諸藩の政策の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎2 節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」に関わる主題を基に、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	◎第 3 編「近世の日本と世界」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	○主題を基に、4 項「幕藩体制の動揺」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、19 世紀前半の政治・社会・文化について理解する。 ○2 節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色を理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて、近世の特色および近代へのつながりについて多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近世の日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。
第 4 編	近現代の地域・日本と世界	11 月～3 月	43	・近現代の地域・日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、近現代の地域・日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・近現代の地域・日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	・近現代の地域・日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。	○近世の幕末期から現代までを扱い、「歴史総合」の学習をふまえて、世界の情勢の変化とそこにおける日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察し理解する。また、それらをふまえて、現代の日本の諸課題について、多面的・多角的に考察して理解するとともに、歴史的経緯や根拠をふまえて構想する。
第 1 章	近代社会の幕開け	11 月	4	・対外関係の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近世から近代への時代の転換を理解している。	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
	1 開国と開港	11 月	2	・列強の東アジア進出や日本の開国と開港、それらが国内に及ぼした影響などについて、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化などに着目して、日本の開国と開港がどのような変化をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。		○開国と開港による日本のさまざまな変化について理解する。
	2 幕府の崩壊と明治維新		2	・江戸幕府が崩壊する要因や、明治新政府による諸政策の意図などについて、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。 ◎近世から近代への時代の転換を理解している。	・政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、どのようにして江戸幕府が崩壊し、明治新政府が成立したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ◎第 1 章「近代社会の幕開け」の内容をまとめるとともに、時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・近代の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	○江戸幕府の崩壊から明治維新に至る過程について理解する。 ○近世から近代への時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
第2章	歴史資料と近現代の展望	11月	2	・近現代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近代の特色についての仮説を表現することを通じて、第3章に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにする。
	1 資本主義の発展と生活	11月	2	◎資本主義の発展と生活に関する資料から日本経済と人々の生活の変化に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎資本主義の発展と生活に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第4編「近現代の地域・日本と世界」の学習の見通しをもって、近現代の特色について明らかにしようとしている。	○資本主義の発展と生活に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、資本主義の発展と生活に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
	2 国民国家と政治参加		2	◎国民国家と政治参加に関する資料から政治と国民の関係に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎国民国家と政治参加に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第4編「近現代の地域・日本と世界」の学習の見通しをもって、近現代の特色について明らかにしようとしている。	○国民国家と政治参加に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、国民国家と政治参加に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
	3 世界のなかの近現代日本		2	◎世界のなかの近現代日本に関する資料から日本の外交政策や貿易に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	◎世界のなかの近現代日本に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・第4編「近現代の地域・日本と世界」の学習の見通しをもって、近現代の特色について明らかにしようとしている。	○世界のなかの近現代日本に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、世界のなかの近現代日本に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
第3章1節	近現代社会の展開「近代的制度の導入と新しい国際関係」	11月	4	・明治維新、文明開化の風潮、学問の発展や教育制度の拡充、自由民権運動などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解している。	・アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、欧米の思想・文化の影響、教育の普及とその影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した近現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 制度改革と殖産興業政策	11月	1	・「明治初期の改革にはどのようなものがあるだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「明治初期の諸改革は、近世社会のしくみをどのように変えたのだろうか」などの課題について、地域社会の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。	・1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」に関わる問いをふまえて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「制度改革と殖産興業政策」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通じて、明治初期の諸政策とその意義について理解する。
	2 文明開化と教育制度の整備		1	・「欧米の文化や思想は、どのように人々のあいだに広がっていったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「欧米の文化や思想は、のちの時代にどのような影響を与えたのだろうか」などの課題について、制度や生活の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2項「文明開化と教育制度の整備」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通じて、明治初期の文化・教育の進展について理解する。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	3 東アジア世界のなかの明治政府		1	・「明治初期の日本はどのような関係を諸外国と結んだのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「日本の近代化はどのような国際関係のなかで進められたのだろうか」などの課題について、アジアや欧米諸国との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。		る。 ○主題を基に、3項「東アジア世界のなかの明治政府」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の対外政策について理解する。
	4 政府専制への批判		1	・「政府の政治や政策への反対がおこった理由にはどのようなものがあげられるだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近代の制度の導入、アジアや欧米諸国との国際関係について理解している。	・「自由民権運動にはどのような背景があるのだろうか」などの課題について、明治政府の政策やその影響などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎1節「近代の制度の導入と新しい国際関係」に関わる主題を基に、近代の政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・1節「近代の制度の導入と新しい国際関係」の学習について振り返り、調整しようとしている。	○主題を基に、4項「政府専制への批判」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、自由民権運動の展開について理解する。 ○1節「近代の制度の導入と新しい国際関係」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、近代の制度の導入、アジアや欧米諸国との国際関係を理解する。
第3章2節	「国民国家と資本主義の成立」	12月～1月	7	・大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、産業革命の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解している。	・産業の発展の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・2節「国民国家と資本主義の成立」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・2節「国民国家と資本主義の成立」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した近現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 立憲政治の成立	12月～1月	1	・「大日本帝国憲法はどのような内容だったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「立憲政治の成立によって日本の国際的地位はどのように変化したのだろうか」などの課題について、アジアや欧米諸国との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。	・2節「国民国家と資本主義の成立」に関わる問いをふまえて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「国民国家と資本主義の成立」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「立憲政治の成立」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、立憲制の確立について理解する。
	2 対外関係の変容と日清戦争		2	・「大日本帝国憲法が制定されたころの日本の対外関係はどのようなものだったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「日清戦争で日本が勝利したことにより国際関係はどのように変化したのだろうか」などの課題について、戦争が及ぼした影響などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2項「対外関係の変容と日清戦争」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、条約改正交渉と日清戦争の経緯について理解する。
	3 産業革命と資本主義の定着		1	・「それぞれの産業はどのように発展したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「日本の産業革命の特徴は何だろうか」などの課題について、変化がおきた時期や分野などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、3項「産業革命と資本主義の定着」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治期の産業の発展と資本主義社会の成立について理解する。
	4 教育制度の整備と新しい文化		1	・「明治期にどのような文化が生まれたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に	・「社会の変化は、文化や思想にどのような影響を与えたのだろうか」などの課題について、当時の政治・経済などに着目して考察し、		○主題を基に、4項「教育制度の整備と新しい文化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
				読み取っている。	その結果を表現している。		角的に考察し、表現する活動を通して、教育の普及と文化の発展について理解する。
	5 日露戦争と帝国日本		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日露戦争の前後に、日本はどのような対外政策を展開したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日露戦争は、日本の国際的な地位をどのように変化させたのだろうか」などの課題について、国際関係の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> </ul>		○主題を基に、5 項「日露戦争と帝国日本」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日露戦争の経過と日本の帝国主義の進展について理解する。
	6 日露戦争後の社会と政治		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日露戦争後、国内ではどのような動きがおこったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> <li>◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日露戦争後の日本で、民衆の不満が高まったのはなぜだろうか」などの課題について、戦争が及ぼした影響などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> <li>◎2 節「国民国家と資本主義の成立」に関わる主題を基に、近代の政治の展開と国際的地位の確立、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 節「国民国家と資本主義の成立」の学習について振り返り、調整しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基に、6 項「日露戦争後の社会と政治」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20 世紀初頭の政治と社会について理解する。</li> <li>○2 節「国民国家と資本主義の成立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解する。</li> </ul>
第 3 章 3 節	「両大戦間期の日本」	1 月	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業の発達の影響と背景、地域社会における労働や生活の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大、日本の工業化の進展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 節「両大戦間期の日本」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。</li> <li>3 節「両大戦間期の日本」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第 1 章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第 2 章で表現した近現代を展望する仮説をふまえて、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。</li> </ul>
	1 都市化・重工業化と生活の変化	1 月	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大正期の産業や文化にはどのようなものがあったか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「この時期に生じた、産業や社会の変化の特徴を考えてみよう」などの課題について、産業の発達の背景と影響などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 節「両大戦間期の日本」に関わる問いをふまえて、見直しをもって学習に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、3 節「両大戦間期の日本」の学習について見直しを持つ。</li> <li>○主題を基に、1 項「都市化・重工業化と生活の変化」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第一次世界大戦と当時の産業や文化の発展について理解する。</li> </ul>
	2 政党政治とデモクラシー		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「『護憲』という言葉は何をあらわしていたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「選挙権の拡大はなぜ行われ、また、その意義と限界は何だろうか」などの課題について、地域社会における労働や生活の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基に、2 項「政党政治とデモクラシー」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の政治と社会運動の高まりについて理解する。</li> </ul>
	3 国際社会のなかの日本		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一次世界大戦中と戦後に日本はどのような国際関係を築いたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> <li>◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「この時期の日本外交が、国際社会のなかでめざしたもの何だったのだろうか」などの課題について、戦争が及ぼした影響などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> <li>◎3 節「両大戦間期の日本」に関わる主題を基に、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 節「両大戦間期の日本」の学習について振り返り、調整しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基に、3 項「国際社会のなかの日本」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の日本の対外政策について理解する。</li> <li>○3 節「両大戦間期の日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表</li> </ul>

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
				理解している。	加の拡大、日本の工業化の進展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。		現することを通して、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解する。
第3章4節	「第二次世界大戦と日本」	1月	6	・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。	・国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・4節「第二次世界大戦と日本」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・4節「第二次世界大戦と日本」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した近現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 昭和恐慌と立憲政治の動揺	1月	1	・「この時期の経済政策にはどのような背景があり、どのような結果をもたらしたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「昭和初期の政治にはどのような特徴があったのだろうか」などの課題について、政治・経済体制の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。	・4節「第二次世界大戦と日本」に関わる問いをふまえて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、4節「第二次世界大戦と日本」の学習について見直しを持つ。 ○主題を基に、1項「昭和恐慌と立憲政治の動揺」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、昭和恐慌前後の経済政策と立憲政治の動揺について理解する。
	2 中国侵略と戦時体制への移行		2	・「日中戦争はどのように始まり、どのように展開したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「日本はなぜ中国での戦争を拡大し、その結果どのような影響を社会に与えたのだろうか」などの課題について、国際社会やアジア近隣諸国との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。		○主題を基に、2項「中国侵略と戦時体制への移行」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、満洲事変と日中戦争について理解する。
	3 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開		3	・「第二次世界大戦はどのように始まり、どのように終わったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容について理解している。	・「第二次世界大戦が日本国民や世界の人々にあたえた影響は、それまでの戦争と何が異なっていたのだろうか」などの課題について、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎4節「第二次世界大戦と日本」に関わる主題を基に、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・4節「第二次世界大戦と日本」の学習について振り返り、調整しようとしている。	○主題を基に、3項「戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第二次世界大戦とアジア太平洋戦争について理解する。 ○4節「第二次世界大戦と日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。
第3章5節	「占領と改革」	2月	3	・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、戦後の経済復興などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解している。	・第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・5節「占領と改革」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・5節「占領と改革」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した近現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
	1 占領と日本国憲法の成立	2月	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「戦後、政治や経済、社会などの各分野でどのような改革が進められたのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「戦後のさまざまな改革は、人々の生活をどのように変化させたのだろうか」などの課題について、国民の生活や地域社会の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5節「占領と改革」に関わる問いをふまえて、見直しをもって学習に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、5節「占領と改革」の学習について見直しを持つ。</li> <li>○主題を基に、1項「占領と日本国憲法の成立」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、占領下の政治と日本国憲法の成立について理解する。</li> </ul>
	2 冷戦の開始と経済復興		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第二次世界大戦後、国際情勢はどのように変化したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> <li>◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際情勢の変化は、日本の政治や経済、社会にどのような影響をおよぼしたのだろうか」などの課題について、第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> <li>◎5節「占領と改革」に関わる主題を基に、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5節「占領と改革」の学習について振り返り、調整しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基に、2項「冷戦の開始と経済復興」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、冷戦の開始と日本の復興について理解する。</li> <li>○5節「占領と改革」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解する。</li> </ul>
第3章6節	「国際社会への復帰と高度経済成長」	2月	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和条約と独立の回復、高度経済成長などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦後政治の展開、日本経済の発展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。</li> <li>6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した近現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、我が国の再出発後の政治・経済や対外関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。</li> </ul>
	1 国際社会への復帰と対米協調	2月	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「サンフランシスコ平和条約は何を解決し、何を解決しなかったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際情勢の変化に対し、日本はどのように対応したのだろうか」などの課題について、冷戦の影響などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6節「国際社会への復帰と高度経済成長」に関わる問いをふまえて、見直しをもって学習に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について見直しを持つ。</li> <li>○主題を基に、1項「国際社会への復帰と対米協調」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日本の主権回復とその後の政治について理解する。</li> </ul>
	2 高度経済成長		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本の高度経済成長をさせた条件は何だろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</li> <li>◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、我が国の再出発後の政治・経済や対外関係について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高度経済成長は社会にどのような影響を与えたのだろうか」などの課題について、冷戦の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。</li> <li>◎6節「国際社会への復帰と高度経済成長」に関わる主題を基に、戦後政治の展開、日本経済の発展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について振り返り、調整しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題を基に、2項「高度経済成長」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長とその影響について理解する。</li> <li>○6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解する。</li> </ul>
第3章7節	「アジア情勢の変化と経済大国日本」	2月	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア諸国との関係などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦の影響、グローバル化の進展の影響などに着目して、主題を設定し、第二次</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の内容に対して、見直しをもって学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した</li> </ul>

単元番号	単元名	実施月	単元の時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				(評価の方法)	(評価の方法)	(評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	学習のねらい
				め、現代の政治や社会の枠組みを理解している。	世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	に取り組もうとしている。 ・7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	近現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、現代の政治や社会の枠組みを理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 1970年代の国際社会と日本	2月	1	・「世界情勢の変化に対し、日本の政府はどのように対応したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「高度経済成長を経て経済大国となった日本が、国際社会ではたした役割は何だろうか」などの課題について、冷戦の影響などに着目して考察し、その結果を表現している。	・7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」に関わる問いをふまえて、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について見直しを持つ。 ○主題を基に、1項「1970年代の国際社会と日本」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、1970年代の世界と日本の政治について理解する。
	2 安定成長への転換		1	・「高度経済成長はどのようにしておわり、バブル経済にいたったのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、現代の政治や社会の枠組みについて理解している。	・「高度経済成長の終焉やバブル経済は国民生活にどのような影響を与えたのだろうか」などの課題について、グローバル化の進展の影響などに着目して考察し、その結果を表現している。 ◎7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」に関わる主題を基に、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について振り返り、調整しようとしている。	○主題を基に、2項「安定成長への転換」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長後の政治と経済について理解する。 ○7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組みを理解する。
第3章8節	「新しい国際秩序と日本の課題」	3月	2	・社会・経済・情報の国際化などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。	・国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、現代の世界と日本について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・8節「新しい国際秩序と日本の課題」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 ・8節「新しい国際秩序と日本の課題」の内容に対して、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。	○第1章で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、第2章で表現した近現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
	1 激変する世界と日本	3月	1	・「冷戦が終結し、世界はどのように変化したのだろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	・「冷戦終結とその後のグローバル化の進展は、日本にどのような影響をおよぼしたのだろうか」などの課題について、国民の生活や地域社会の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。	・8節「新しい国際秩序と日本の課題」に関わる問いをふまえて、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について見直しを持つ。 ○主題を基に、1項「激変する世界と日本」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀末の世界と日本の動きについて理解する。
	2 21世紀の日本		1	・「現代日本がかかえている課題とは何だろうか」などの課題について、複数の資料を活用し、学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ◎諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、現	・「現代日本がかかえている課題はどのように生み出され、人々はそのような課題とどのように向き合ってきたのだろうか」などの課題について、国民の生活や地域社会の変化などに着目して考察し、その結果を表現	◎第4編「近現代の地域・日本と世界」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	○主題を基に、2項「21世紀の日本」に関わる課題(問い)を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、21世紀の政治と経済について理解する。

単元番号	単元名	実施月	単元の 時数	評価規準			学習のねらい
				知識・技能 (評価の方法)	思考・判断・表現 (評価の方法)	主体的に学習に取り組む態度 (評価の方法)	
				定期テスト レポート課題	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	
				<p>代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容について理解している。</p> <p>◎8節「新しい国際秩序と日本の課題」に関わる主題を基に、現代の世界と日本について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。</p> <p>◎第4編の学習を通して見いだしたさまざまな画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し、我が国の近現代を通じた歴史の画期などを根拠を示して表現している。</p>			<p>◎8節「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。</p> <p>◎時代を通観する問い、仮説をふまえて、近現代の特色および現代の日本の課題について多面的・多角的に考察して表現するとともに、第4編「近現代の地域・日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。</p>
第4章	現代の日本の課題の探究	3月	4	<p>・先史・古代、中世、近世、近現代の学習をふまえて、現代の日本の課題を理解している。</p>	<p>・先史・古代、中世、近世、近現代の学習で表現した歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現している。</p>	<p>・先史・古代、中世、近世、近現代の学習を振り返り、自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。</p>	<p>◎これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。</p>
	1 社会や集団と個人	3月	4	<p>◎「社会や集団と個人」をテーマに、歴史的経緯をふまえて、現代の日本の課題を理解している。</p>	<p>◎歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、「社会や集団と個人」をテーマに現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現している。</p>	<p>◎これまでの学習を振り返り、自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。</p>	<p>◎「社会や集団と個人」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。</p>
	2 世界のなかの日本		4	<p>◎「世界のなかの日本」をテーマに、歴史的経緯をふまえて、現代の日本の課題を理解している。</p>	<p>◎歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、「世界のなかの日本」をテーマに現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現している。</p>	<p>◎これまでの学習を振り返り、自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。</p>	<p>◎「世界のなかの日本」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。</p>
	3 伝統や文化の継承と創造		4	<p>◎「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、歴史的経緯をふまえて、現代の日本の課題を理解している。</p>	<p>◎歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、「伝統や文化の継承と創造」をテーマに現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現している。</p>	<p>◎これまでの学習を振り返り、自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。</p>	<p>◎「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。</p>
定期テスト	1 学期中間 1 学期期末 2 学期中間 2 学期期末 3 学期期末	5月 7月 10月 12月 3月		<p>・資料を適切かつ効果的に活用する技能や、概念的な理解に基づく知識を獲得できているか、問題を工夫して評価する。</p>	<p>・多面的・多角的に考察し、表現できているか、論述させるなど、問題を工夫して評価する。</p>		